

## 4月の首都圏マンション発売

# 4カ月連続でマイナス

不動産経済研究所

不動産経済研究所(新宿区)がまとめた首都圏のマンション市場動向によると、2015年4月の新築マンション発売戸数は前年同月比7・6%減の2286戸となり、4カ月連続でマイナスとなった。前月と比べると48・7%減。1戸当たりの平均価格は5305万

円で、前月に比べ9・5%アップ。1平方メートルの平均単価も7・8%上昇した。

物件が実際に売れた割合を示す契約率は75・5%で、好不調の目安とされる70%を4カ月連続で上回った。5月の販売戸数は4000戸を見込む。

\* \* \*  
発売戸数は減少が続い

ているが、販売価格は上昇傾向にある。このうち都心の単身者向けコンパクトマンション市場について、市場コンサルタントを兼ねるトータルブレイン(港区)の久光

龍彦社長は「都心6区のうち、新宿区と千代田区、中央区、文京区の4区で坪単価・価格帯の上昇が目立つ」と分析する。一方で、氏金則による借入金の増額が貢献

し、販売状況は好調だという。「首都圏のコンパクトマンション市場は現在、需給バランスが非常に良好な状態」とみている。